貧農のうたえる詩

長沢佑

青空文庫

春――　三月――
薄氷をくだいて
おらあ田んぼを打った
めっぽー冷(はっ)こい水だ
足が紫色に死んで居やがる
今日は初田打
晩には一杯飲めるべーと気付いたので
おらあ勇気を出した
ベッー‼
手に唾をひっかけて鍬の柄をにぎった
だがやっぱりだめ
手がかじかんで動かない
ちきしょう
おらあやっぱり小作人なんだ

それから夏が来た

煮えかかるような田の中で
俺達は除草機の役をする
十日も続く　指の先から血が滲む
其のいたいったら
ちきしょう！
地主のうちの娘っ子が通る
メンコイ顔した娘っ子が
町の女学校へ行くんだ
柄のデッケイこんもり傘だ
涼しそうなパラソルだな　俺(おれ)んもな
妹の野郎がおふくろにしゃべった
馬鹿野郎　だまって仕事しろ
俺は呶鳴(どな)った　したらみんなだまった
また今年も半作だぞ
親父が暗い顔で言った
地主の野郎は今頃扇風機の三つもかけて居やがるだろう
ああ暑くて死にそうだ！

おらあやっぱり小作人なんだ

渡り鳥が来て秋に成った
それからすぐ又冬が来た
親父が又言った
今年も半作だぞ……
然(しか)し俺達は今迄の小作人では無かった
村では去年にこりて
組合を作ることにした
下村の奴等が仲間に成れと云って来た
だが　俺達は
一番しっかりした組合
全農の仲間入りをした
全国農民組合新潟県連合会南部地区西南部小地区
恐しい長い名前だ
おらあ何度もケーコしたが
まだおぼえられねい

そして演説会があった、俺は聞きに行って
新しい言葉をおぼえた「何たる矛盾ぞ」
俺は早速帰って来て呶鳴った
働く者は貧乏する！
遊んで居やがる地主は金持だ！
「何たる矛盾ぞ！」

（一九二九年八月三日作　『戦旗』同年十月号に発表）

青空文庫情報

底本：「日本プロレタリア文学集・38　プロレタリア詩集（一）」新日本出版社
　　1987（昭和62）年5月25日初版
初出：「戦旗」
　　1929（昭和4）年10月号
※×印を付してある文字は、底本編集部による伏字の復元です。
入力：坂本真一
校正：雪森
2015年12月12日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

貧農のうたえる詩

長沢佑

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/